

# 分科会 18

## SOS を出しづらい人やその家族へのアウトリーチ

～引きこもり、ホームレス、行政などの現場から～

コーディネーター： 梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル）  
出演者： 清野賢司（NPO 法人 TENOHASI）  
西内絵里沙、中西清晃（所沢市アウトリーチ支援チーム）  
渡邊乾、青柳雄三、村杉香織、佐藤裕紀、浅井陵（訪問看護ステーション KAZOC）

必要なサービスが目の前にあっても自ら声を上げられず、なかなかそこに繋がることのできない方々がいらっしやいます。

この分科会では、もっと SOS を出しても良いんだよ！ 支援を求めても大丈夫なんだよ！ というメッセージとともに、そうした SOS を出しづらい方々と向き合い、支援者側から寄り添っていくアウトリーチについて、参加者の皆さんと対話を重ねました。

また、SOS を出しづらい方々へのアウトリーチといっても、準備段階も含めどのように関わっていけば良いのかわからないという専門家の方もいらっしやるかと思えます。当事者やそのご家族の立場の方々はもちろんのこと、これからアウトリーチを試みようと思っている支援者の方々も含め、会場にいらっしやる皆さんが少しでも楽になれるような分科会にしたいと思って開催いたしました。

### 【報告・発表内容】

- ①コーディネーター（梁田）より、支援者と出会ってしまったことによってむしろ SOS を出しづらくなっている人が少なからずいらっしやる事実や、SOS を出しづらい人への関わりには社会の「客観」よりもその人の「主観」を尊重することに意味があることなどを伝えながら、この分科会の趣旨を説明
- ②ホームレス支援の現場（清野）から、具体的な事例をもとに、SOS を出しづらい人だけに課題があるのではなく、その人を取り巻く環境にも大きな課題があることなどについて
- ③行政のアウトリーチの現場（西内ら）から、行政だからこそ行えるアウトリーチの強みと、行政だからとて当事者の個別性を大切に尊重しながら関わっていることなどについて
- ④訪問看護の現場（渡邊ら）から、予め用意された言葉を使うのではなく、フロアの声も聴きながら、これまでの発表者らに対する感想も交えながら、オープンな形での対話（発表）を展開

### 【意見交換を行ってみたいの感想】

フロアの参加者の皆さんからは、時間が足りないほどの沢山のご質問を頂戴しました。支援者だけでなく、当事者やご家族の立場の方から沢山ご発言いただけたことがとても良かったと思っています。

でも、皆さんおっしゃられることが百人百様でしたね。それぞれのお立場によってご意見が異なることは当然のことでしょう。仮に親子であったとしても、人は皆「違う」ということが当たり前のことと認識し、その「違い」を尊重したり認め合ったりするプロセスが社会には必要で、その「承認」は SOS を出しづらい人やその家族へのアウトリーチでも、とても意味のあることなんだと改めて実感しました。

≪梁田英麿（東北福祉大学せんだんホスピタル）≫